

<13> 京都大学総合人間学部

1. 教養教育の改革

1) 教養科目と総合人間学部の関係

総合人間学部は、教養科目についての全学での、実施責任部局である。東大教養学部の場合とは異なり、担当責任部局ではない。従って、教養科目を全部担当する責任を負っている訳ではない。

しかし現実には、教養関係の科目の大部分が、まだ総合人間学部によって担当されており、実質的な負担増となっている。このため、教官のみならず、学生の不満も大きい。これが解決できなければ、大学院の設置も難しいと認識されている。

2) 「全学共通科目」について

従来の一般教育科目に代わるのが、全学共通科目である。その全体については、全学機関である教育課程委員会の下にある、カリキュラム専門委員会で決定することになっている。

これは原則として、全学の各学部が提供するはずになっている。学部別の配分は次の通りである。

1993（平成5）年度	総合人間学部	283科目	1200コマ
	他学部計	52科目	35コマ
1994（平成6）	総合人間学部	330科目	
	他学部計	98科目	61コマ

総合人間学部が94%程度を担当している。他学部の提供分も増加はしている。特に理科系学部では肩代わりが進み、特に専門基礎科目では学部で行うものが多くなっている。理学部の数学、工学部の専門基礎科目が、全学共通科目として提供され、これが肩代わりと成っている。また研究所、センターは、学生を引き付けるために、全学共通科目を出す傾向がある。

3) 科目選択の問題

なお京都大学では、科目選択の自由を尊重する伝統がある。そのため科目選択の幅を広くしておくことが要求される。結果として、学生の都合のよい時間に配置されていたために、ある社会学の講義で2,400人が試験を受けた、といった現象も起こった。試験も2週間ではすまなくなる。いずれにせよ、これもカリキュラムの編成に大きな制約を与えている。このような問題についての解決の展望が立たない。

4) 語学について

改組に伴って、総合人間学部は以前の教養部と比較して語学の教官数が削減される。英語、ドイツ語はそれぞれ6人ずつ削減される。その結果、たとえば英語は26人になる。東大教養学

部は、40人である。それにも関わらず、各学部の語学の要求単位は一般に減少していない。これまで語学は3割程度が非常勤講師でまかなわれているが、それが今年は5割、またこれからの不足分をすべて非常勤講師で補おうとすると、それが3分の2程度になることになる。英語では1クラスの学生数も1年次が50から60人、2年次（再履修者を含む）が70から80人と大きい。LL教室はやっと5つできることになっている。

語学はこれまで1コマで2単位しか出していない。これを4単位とする、といったことも考えられるが、周囲が難しい。語学の授業時間を、通常の時間より短くするのも、今のところ時間割り編成上で難しい。ただしドイツ語については、工学部が第2外国語の要求単位を8単位から4単位に減少させたことなどもあり、英語ほど深刻ではない。

また京都大学固有の事情として、教官だけでなく学生の間にも、旧制高校をうけついで一種の教養主義がある。そのため、語学でも教材の内容がそのような目的にあったものが求められ、東京大学のような、教育方法上の革新が困難である。

京都大学には、言語文化センターのような形で、語学教育を別扱いしなかった。なお語学の教員はすべて総合人間学部の国際文化学科に所属することになった。

2. 総合人間学部とそのカリキュラム

1) 組織と定員、入学者

人間学科、国際文化学科、基礎科学科、自然環境学科の4学科で構成される。それぞれの学科に属する大講座は次の通り。

人間学科	－ 人間基礎論、生活空間論
国際文化学科	－ 文化構造論、文明論、言語文化論、 日本・中国文化・社会論、欧米文化・社会論
基礎科学科	－ 数理基礎論、情報科学論、自然構造基礎論
自然環境学科	－ 物質環境論、生物・地球圏環境論、環境適応論

入学定員は130人で、現在は1993（平成5）年4月入学者がいるのみである。

学生は2年次に進学するときに、学科を選択する。また主専攻と副専攻をとることがすすめられる。

初めての入学者を募集するについては、京都内の高校に説明に回った。1994年度入学者については、全国的な希望者があった。

2) 総合人間学部のカリキュラム

総合人間学部は、旧教養部改組にともなって設置された学部であり、そのカリキュラムは、三つのカテゴリーに分類されている。

カテゴリー1：学部専門科目。原則として総合人間学部の学生のための専門科目で、他学部の学生は参加できない。

カテゴリー 2：総合人間学部の専門科目であるが、他学部の学生も「全学共通科目」として取得できる。「高度一般教育」の理念に相当する。「高度一般教育」の概念は昔からあり、副専攻の考え方に近い。

カテゴリー 3：従来の一般教育科目に相当する。他の学部の学生も含めて、全学共通科目として取得される。

現在の開講科目としては、まだカテゴリー 1 は少ない。現在のところカテゴリー 2 が多く、A 群（理科系）58 科目、B 群（人文社会系）94 科目ある。高度一般教育がかなり総合人間学部で拡充されている。

3. 教養部改組の組織的側面

1) 経緯と特徴

1993（平成 5）年 4 月に、旧「教養部」を改組した。その結果として、「総合人間学部」と、大学院独立研究科として「人間・環境学研究科」が設置された。総合人間学部は、専門学部として 3、4 年次の学生を持つほか、1996（平成 8）年度までに大学院が設置されることになっている。

旧教養部の改革の形態としては、広島大学においてかつて「総合科学部」が設置されたのと同様な点がある。しかし現在では、教官定員の純増の見込みは全くない。これが困難な点である。京都大学の場合は、文部省は教養部の定員そのまま、改組しろという方針だった。

また最近、名古屋大学、神戸大学でも教養部改組が行われたが、これと比べると、教養部が学部改組されたのは京都大学だけである。名古屋大学は教養部から改組された情報文化学部の定員は半分となった。神戸大学は、教育学部の改組とくみあわされて、人間発達学部となった。

2) 旧教養部からの経過

旧「教養部」に所属する教授・助教授は 198 人であった。このうち、約 40 人が 1993 年 10 月に「人間環境学研究科」に、「基幹教官」として配置換えになった。（ただし人間環境学研究科の教官も一般教育を兼担することになっている）従って、158 人弱が総合人間学部に残った。

このほか総合人間学部の教官のうち 70 人が協力教官となっている。従って、人間環境学研究科に全く関係のない、総合人間学部の教官は 80 人あまりとなる。この 80 人あまりは、全く大学院を担当していない。この人たちの学生が大学院進学するまでに大学院を作る必要がある。以上をまとめると次のように整理できよう。

改訂前 改訂後

教養部 人間環境学研究科および総合人間学部

198 約 40（人間環境学研究科・基幹教官 大学院担当）

70（総合人間学部所属 人間環境学研究科・協力教官 大学院担当）

80（総合人間学部所属 大学院担当なし）

3) 総合人間学部の教官定員

上述のように、創設時に、人間学部に所属したのは約160人であった。これには臨時増員分の12人、戦後、教養部成立のときに各学部から流用した定員が20人ほど含まれていた。

他方で改革によって、総合人間学部の独自の定員として正規についたのは、105人であった。また総合人間学部新設にともなって、105人に加えて、定員の新規増が教授・助教授23人ある。これが学年進行で加えられる。この結果、総合人間学部の定員は128人となる予定である。

その結果、創設時に、総合人間学部の定員34人を、各学部に移籍することになっていた。これは専門基礎科目の担当者として各学部がうけいれる筈であった。しかしその点についての合意がえられないままに改革が見切り発車した。そのため、実際には（薬学部、理学部に移籍した各1人を例外として）定員に対応する教官を各学部が受け入れていない。また臨時増定員のうち1人は、この4月1日に削減の対象となる。

その結果、定員を削減するために、これから4年間は総合人間学部の教官を補充することが出来ない。また戦後の各学部からの流用定員については、各学部に返却すると総合人間学部の運営が全く不可能となる。

このように人員を削減しなければならないのに、教養科目の要求については、全く削減の見通しが立っていないところに基本的な問題がある。

4) 大学院「人間環境学研究科」

旧教養部を中心として、人間環境学研究科ができたが、これは他の協力講座をも統合したもので、旧教養部そのものの大学院ではない。総合人間学部の設置に伴い、年次進行で大学院を設置することになっており、現在「自然・文化基礎研究科」構想をすすめている。

5) 管理・運営

総じて人間・環境学研究科との関連が難しい。また人間・環境学研究科には大講座に、人文系、理科系の双方が参加したが、これが問題を生じる原因となっていると考える人が多い。総合人間学部についても、人文系、理科系の関係が難しい。

総合人間学部の学部教育については、「学事会議」が決定機関となる。これに総合人間学部と人間・環境学研究科の教官が参加する。人間・環境学研究科については、他部局からの協力教官も含めて、研究科委員会をおこなう。東京大学では教授会が多いといわれる。ここではどのように会議を多くするか否かを含めて検討している。

訪問1994年3月23日 記録 金子 元久